

三條別院のご案内

三條別院では、去る十一月五日から八日まで、宗祖親鸞聖人のご遺徳に報ずる、お取り越し報恩講を厳修しました。三日のお取り越しお待ち受けの集い「ぼさま寄席」では、

お取り越し報恩講厳修

地元三條の人々に「御坊（ぼ）さまのお取り越し」が勤まることをお伝えしたいという願いのもと、本年も三遊亭金馬師匠をお招きして開催され、満員の堂内が笑いの渦に包まれました。十一月五日の音楽法要では、全六回の習

礼を終えた女性僧侶を助音方に、教区内七カ所から集まった讃歌衆と共に、音楽法要を勤めました。また、昨年同様推進員にも「真宗宗歌」「みほとけは「恩徳



【女性僧侶のみによる助音は当別院初の試み】

多くの女性僧侶が法要の場に出仕できるため

「讚」の三曲を唱和いただきました。また、報恩講実行委員会において、より



【推進員も合唱に参加した】

が御参修されました。また、初速夜後には当別院輪番（鷺尾幸雄）が親鸞聖人のご生涯を記した御伝鈔上巻



【中富正純氏による御伝鈔拜読（6日）】

教区内各地からの参詣で賑わう

の機縁となればと、紆余曲折の中で検討されてきた音楽法要です。推進員も、事前の「秋の清掃奉仕研修」をはじめ、限られた時間で練習に励んできました。何より出仕された女性僧侶達にとつて、習礼だけではとても足りなく、多くは自己研鑽に委ねられたこととは非常に厳しいことであつたようです。初速夜からは三條声明会の出仕をいただき勤められました。六日の日中法要からは、御鍵役（信明院殿）



【鷺尾輪番による御伝鈔拜読（5日）】

を、六日には中富正純氏（第二十三組福照寺）が下巻を拜読されました。堂内の照明を落とし、御絵伝をスクリーンに映しだす試みも定着してきたようです。

また、本年は教区内のより多くの僧侶に出仕いただくことを願い、三條別院と柏崎地区にて一回ずつ、二度の出退作法講習会を行うという試みをはじめました。次年度以降も、各地区ごとに講習会を開催していく予定になっています。教区内各



【御鍵役により帰敬式が執行】

地の僧分の御力添えを賜り、本年の報恩講にも、多くの内陣出仕をいただきました。

また、六日・七日には御鍵役により帰敬式が執



【三座の法話を勤められた金子正美氏】

行され、二十六名の仏弟子が誕生いたしました。

講師陣には金子正美氏（高田

教区第六組最賢寺）、内田桂太氏

（かもしか病院医師）、中島義紘

氏（第十一組願興寺衆徒）、小林

智光氏（第十二組淨照寺）、関崎

智弥氏（第十八組重蓮寺）、山代英世氏（第二十一組淨泉寺）をお招きしました。七日から八日まで講師を勤められた金子先生は、越後の念仏者金子大栄師の孫にあたり、昨年の御遠忌お待ち受け法要実行委員会の門徒委員の一人が、以前先生の話をお聞きして感銘を受け、ぜひ三条別院報恩講にもお招きしたいという想いが成就したものでした。



【上から内田氏・中島氏・小林氏・関崎氏・山代氏。各講師が様々な視点から法話をされた】

また、本年は三月十一日に起こった東日本大震災を受け、被災者の方々にぜひ手を合せることのできる場となればという実行委員会の提言で、三条市内へ避難している約百二十世帯に案内を出させていただきました。三月から五月まで別院に避難されていた佐々木さんご一家も、遠く福島県から報恩講にお参りに来て下さいました。

なお、この度の報恩講には教区内御寺院のご尽力を得て、報恩講の仏華を荘厳することができました。御鍵役からは「お勤めの声が非常に大きかった。また、特に立華が見事だった」とのお言葉をいただきました。最後に、この度の三



【本堂は多くの参詣で賑わった】

条別院報恩講を厳修するにあたり、法要へ出仕いただいた方々、スタッフとしてお手伝いをいただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げるとともに、来年のお取り越し報恩講もまた、御同朋御同行の皆様方のご尽力により勤修出来ますよう、念願されます。

三条別院に想う

三年前になるでしょうか、十七組門徒会の役員として三条別院に招集を受けました。それが私には初めての別院との出会いでした。道中、道に迷ってしまいました。三の町病院の近くで一人のおじいさんに合い、道を尋ねますと快く教えて下さいました。ごぼう様ですねという事でした。私には初めて聞く言葉でした。ようやく辿り着く事が出来ました。長い参道を通り、本堂にありました。本堂は静かに私を迎えてくれました。「本堂は大分痛んでいるな。」「維持管理は大変だろうな。」「と独り言を言いながら同朋会館へ回り、その日の会議に出席しました。

十月二十一日は新潟木場教会の報恩講が勤まりました。その法話の中で三条別院の事が話されました。本山があまりにも遠くだから、別院があり、そしてお手継ぎのお寺があり、そして各自の御内仏があるというお話でした。

十一月八日は別院の報恩講にお参りさせていただきました。金子正美、最賢寺住職の法話を大変感激しながらお聞きしました。本堂は少し寒かつ

たけど、会館では温かいお齋が待っていました。お料理の一品一品がお勝手の皆様の心からのお料理でした。『NHKラジオ深夜便 心の時代』で東京農業大学のある教授のお話、「身体の中を仏が通る。食べ物全て仏である。私達は魚のいのち、大根のいのち、牛、豚、全てのいのちをいただいで、私は生きている。」とそんな事を思い出しながら：「われ今、この浄き食を終わりにて、心豊かに力身に満つ。ごちそうさまでした。」心も身体も温かくなり、感謝でいっぱいでした。

三条別院は地方門徒の心の拠り所であり、中心的立場ではないでしょうか。もともと私も別院に足を運び、もう少し近くなりたいと想っています。三条別院に想うとは私の願いだと思えます。今年には色々な災害がありました。まだ帰る事の出来ない福島の人達の事を偲うと心が痛みます。来年こそは良い年に成りますように祈っております。

(第十七組 清徳寺門徒 相川 福栄知 氏)

○次回の「三条別院に想う」は、

福田 学氏(第十五組 善性寺)より

ご執筆いただきます

■本山御正当報恩講団参報告

本年の真宗本
廟報恩講は、宗
祖親鸞聖人七百
五十回御遠忌の
一環として、十
一月二十一日か
ら二十八日まで
勤められました。
当別院では、例
年のごとく御正
当団体参拝を計
画してまいりま



【27日の結願速夜から3日間参詣した】

したが、実に定員四十名を超す申し込みがあり、賑やかに、本山参拝をしてきました。早朝五時に新潟駅を出発したバスは本山に向けて北陸道を疾走し、結願速夜では、三月から五月にかけて厳修された御遠忌法要では残念ながら執行されなかつ



【29日の御本尊動座式】

た、雅楽、参
堂列(お練り)、
散華という儀
式に遭遇うこ
とができまし
た。翌日は朝
の四時に起床
し、開門と同
時に御影堂に
入り、晨朝の
お勤めと、結
願日中の坂東

曲に手を合わ
せました。翌
日は再度本山
で、御本尊の
動座式に参拝。
「五十年に一
度とはいいが、
今こうして勤
法要にお参り
できるひとは、
ほんのわずかし
かいない。二万
人の参詣とい
っても、今生
きている人の数
からすれば、ほん
のわずかだ。次
の御遠忌までた
とえ生きていた
としても、お参
りできるとは限
らない」参詣者
の一人が漏らした
言葉です。参加
者には教区田ん
ぼアート事業の
御指導をいただ
いた西山町の晴
耕雨読の会と、
俵職人の方、別
院有志の会、坊
守会前役員や、
真宗学院生など
、いろいろな立
場の方々がお
られ、異なった
環境の中、異な
った動機で、異
なった想いで手
を合わせていた
ことでしょう。
しかし、「念仏」と
いう一点では、
誰もが変ること
はありません。
「同一念仏」と
いう言葉がある
ように、御正當
報恩講のお勤め
も、すべて念仏
の現われなの
ではないですか
らうか。
最終日、満堂
の動座式で正信
偈を同朋唱和
でお勤めしまし
た。佐渡から参
加してくれたご
門徒が「涙が
でてきた」と目
を潤ましていた
のが印象的です。



【28日は大谷祖廟に参拝】

■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げております。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【十二月二十八日（水）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

関根 正隆 氏（第十組 長徳寺）

◇二〇二二年 法話講師一覧

- 一月 米山 裕子 氏（真宗学院第一期卒業生）
- 二月 鷺尾 幸雄 氏（三条別院輪番）
- 三月 松澤 孝然 氏（第十九組 浄林寺）
- 四月 泉 智慶 氏（第二十三組 慶誓寺）
- 五月 武樋 隆如 氏（第十四組 蓮光寺）
- 六月 松野 祐 氏（第十三組 善行寺）

■定例法話会のご案内

毎月十三日は、「両度の命日」と呼ばれている前門首の命日です。また、蓮如上人も御文の中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。（四帖目十二通）

三条別院の一番古い建造物である旧御堂で仏法に触れるひと時を味わいませんか。皆様、お気軽にお越しください。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後二時三十分より（約一時間程度）

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇御講師

十二月 風巻 和人 氏（第十組祐光寺）

一月は休会とさせていただきます。

二月～四月

塚本 智光 氏（第十八組 等蓮寺）

※塚本氏には、三ヶ月にわたってご法話をいただきます。



【10～12月講師風巻和人氏は「明治の両堂再建と当時の人々を考える」というテーマで話された】

■煤払い奉仕団に参加しませんか？

今年も残すところ後わずかになりました。そこで、一年で溜まった埃を払う「煤払い奉仕団」を左記のとおり開催いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

○日 時 十二月十八日（日）

午前九時より正午まで

○場 所 三条別院本堂

○持ち物 勤行集、念珠

※参加される方は、十二月十四日（水）までにご連絡ください。

※動きやすい服装でご参加ください。

■除夜の鐘・修正会のご案内

除夜の鐘

◇日 時 十二月三十一日（土）

午後十一時四十五分より

◇場 所 当別院鐘楼堂

※受付は教区同朋会館

○受付場所にて、温かいお飲み物を振る舞います。
修正会

◇日 時 二〇二二年一月一日（日）

午前零時より

◇場 所 当別院本堂 旧御堂

○お勤め後、旧御堂にて輪番による新年の挨拶

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、同朋会館一階事務所にございます宿泊者帳に記帳していただき、シートクリーニング代としまして、五〇〇円いた

だいております。

また、翌朝七時より本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。

ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院御影巡回がより多くの方々のお念仏をいただける場となるご縁となりますことを、願っております。

※曜日・時間等は昼夜問わず、皆様のお仕事の後などご相談させていただきます。

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によって護持されてきました三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出会うことを通じて、ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となることを願い、奉仕研修会を開いてみませんか。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会をお申し込みいただく方(団体)へ、真加金としまして左記のとおりお願い致します。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)

- ・朝食代 五〇〇円
- ・昼食代 一、〇〇〇円程度
- ・夕食代 一、三〇〇円程度

■三条別院有志の会について

三条別院では「有志の会」と称し法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方に集りいただいております。

有志の会の皆様方には、この度のお取り越し報恩講にも加勢いただきました。また、今月の煤払い奉仕研修にも参加していただくことになっております。

現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいませう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

◇◇編集後記◇◇

十一月は三条別院お取り越し報恩講をお勤めさせていただき、また本山御正當報恩講にも引率で参詣させていただきました。後片付けも含めて、慌ただしい毎日がまだ続いている。

さて、本山参拝では、二十七日の結願速夜の後、旅館に戻って小宴会があったのだが、その後希望

者を募って高倉会館に法話を聞きに行く予定であった。ただ、早朝五時に新潟を出てきたこともあり(そして次の日は開門めがけて「四時」起床である)、みな弱気になって、明日も早いからなあという雰囲気であった。私はいささか意気消沈していたところ、真宗学院生の参加者が声をかけてくれて、たった二人で高倉会館へと向かったのであった。新潟大学の教授と本多弘之先生の法話を聞いた。二人で感想などを話しながら、宿へと歩いた。引率者という立場上、一人きりで意気揚々と高倉会館に向かうわけにはいかない。このような方がいらっしやるお陰で、高倉会館に行ける。非常にうれしかった。

本山団参でも、何度もお酒をいただく機会があったが、別院報恩講以来、確実にその機会が増えているように思うのだが、気のせいだろうか。飲むと読書ができなくなるので、酒があまり好きではないと公言している。それ故、自分から飲みみでることはほとんどない。けれど三条別院に身を置いている以上、本寺小路の「行きつけの」スナックで、難しそうな顔で思惟することは夢でもある。報恩講期間中(報恩講前から)、何度も何度も本寺小路に引きずっていかれた。別院職員という立場上、意気揚々と家路につくわけにはいかない。このように引きずってくれる方々がいらっしやるお陰で、本寺小路で迷える。非常にうれしい。格好よくまとめようとする自分が嫌だが、高倉会館と本寺小路のあいだに身をすえることのできるような、そんな人間になりたいものである。あくまでも理想である。